

平成27年度 伊勢原市史編集委員会 会議録

[事務局] 文化財課

[開催日時] 平成27年4月28日(火) 午後1時30分～3時30分

[開催場所] 市役所 2階 2D会議室

[出席者]

(委員) 鈴木良明(委員長)、樋口雄一(委員長職務代理)

(事務局) 鈴木(教育長)、山口(担当部長)、立花(文化財課長)、井上、酒川

[公開可否] 公開

[傍聴者数] 0人

《審議の経過》

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 自己紹介

5 議 事

(1) 報 告

ア 伊勢原市史 通史編近現代の刊行

伊勢原市史 通史編近現代の刊行を報告した。

委員所感として、

・伊勢原市には同和地区があるが、事務局と調整し、歴史の流れの中で記述するようにした。

・市内で資料を持っている人が、神奈川でも特に多い地域であったと思うが、紙面の都合もあり、それらを十分に活用しきれなかった部分がある。

たとえば茶加藤など十分に描ききれなかった。

- ・昭和期では大山町の公文書があったので触れることができたが、明治期はあまり触れられなかった。大山地区の明治維新期の研究は、これからになるかと思う。必ずしもお寺と神社の関係だけではない。

(2) 協議

ア 市史ダイジェスト版について

- ・ダイジェスト版は、伊勢原を分かりやすく伝えていくために有益である。ほとんどの市で作成している。寒川町のダイジェスト版を参考にしたらどうか。写真も多く、売れ行きも良いと聞いている。
- ・考古学の資料データは文化財課が多く持っているだろう。
- ・事務局案作成後、再度協議することで合意した。

イ 市史編さん事業終了後の資料の取扱いについて

- ・公文書を遺していくことは、市民の財産である。例えば税金の記録があれば何をやっていたかがわかる。
- ・日本の公文書の扱いは世界でも最低の部類。世界的には、文書を保存することは市民の文化を保存することであるという認識が一般的。
- ・公文書の保存は、市全体の大きなシステムの中でやっていくべきこと。保存スペースの確保の問題もある。ここで資料を集めておかないと次の市史が作れなくなるだろう。
- ・他市町村の動向を含め継続協議していくことで合意した。